



7:1 イエスは、耳を傾けている民衆にこれらのことばをみな話し終えられると、カペナウムにはいられた。

7:2 ところが、ある百人隊長に重んじられているひとりのしもべが、病気で死にかけていた。

7:3 百人隊長は、イエスのことを聞き、みもとにユダヤ人の長老たちを送って、しもべを助けに来てくださるようお願いした。

7:4 イエスのもとに来たその人たちは、熱心をお願いして言った。「この人は、あなたにそうしていただく資格のある人です。」

7:5 この人は、私たちの国民を愛し、私たちのために会堂を建ててくれた人です。」

7:6 イエスは、彼らといっしょに行かれた。そして、百人隊長の家からあまり遠くない所に来られたとき、百人隊長は友人たちを使いに出して、イエスに伝えた。「主よ。わざわざおいでくださいませんかように。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。」

7:7 ですから、私のほうから伺うことさえ失礼と存じました。ただ、おことばをいただきさせてください。そうすれば、私のしもべは必ずいやされます。

7:8 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私の下にも兵士たちがいて、そのひとりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ。』と言えば、そのとおりにいたします。」

7:9 これを聞いて、イエスは驚かれ、ついて来ていた群衆のほうに向いて言われた。「あ

なたがたに言いますが、このようなりっぱな信仰は、イスラエルの中にも見たことがありません。」

7:10 使いに来た人たちが家に帰ってみると、しもべはよくなっていた。

百人隊長はローマ兵であり、異邦人ですから、イスラエル人にとっては汚れた民とされていた人々です。そのような人に対して「立派な信仰」とお褒めになったイエス様は、選民と異邦人という差別にとらわれていなかったことは確かです。救い主イエス様は全世界の人々のために存在されたのです。

この百人隊長の信仰は、「あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。」という謙遜とともに、イエス様の権威のもとにすべてがあるという確信でした。イエス様が全能の神であられることを表したのです。

私たちも、形や状況にとらわれずにイエス様の全能の権威を信じましょう。また自分のプライドを捨てて、イエス様の前にひれ伏して、みわざを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

